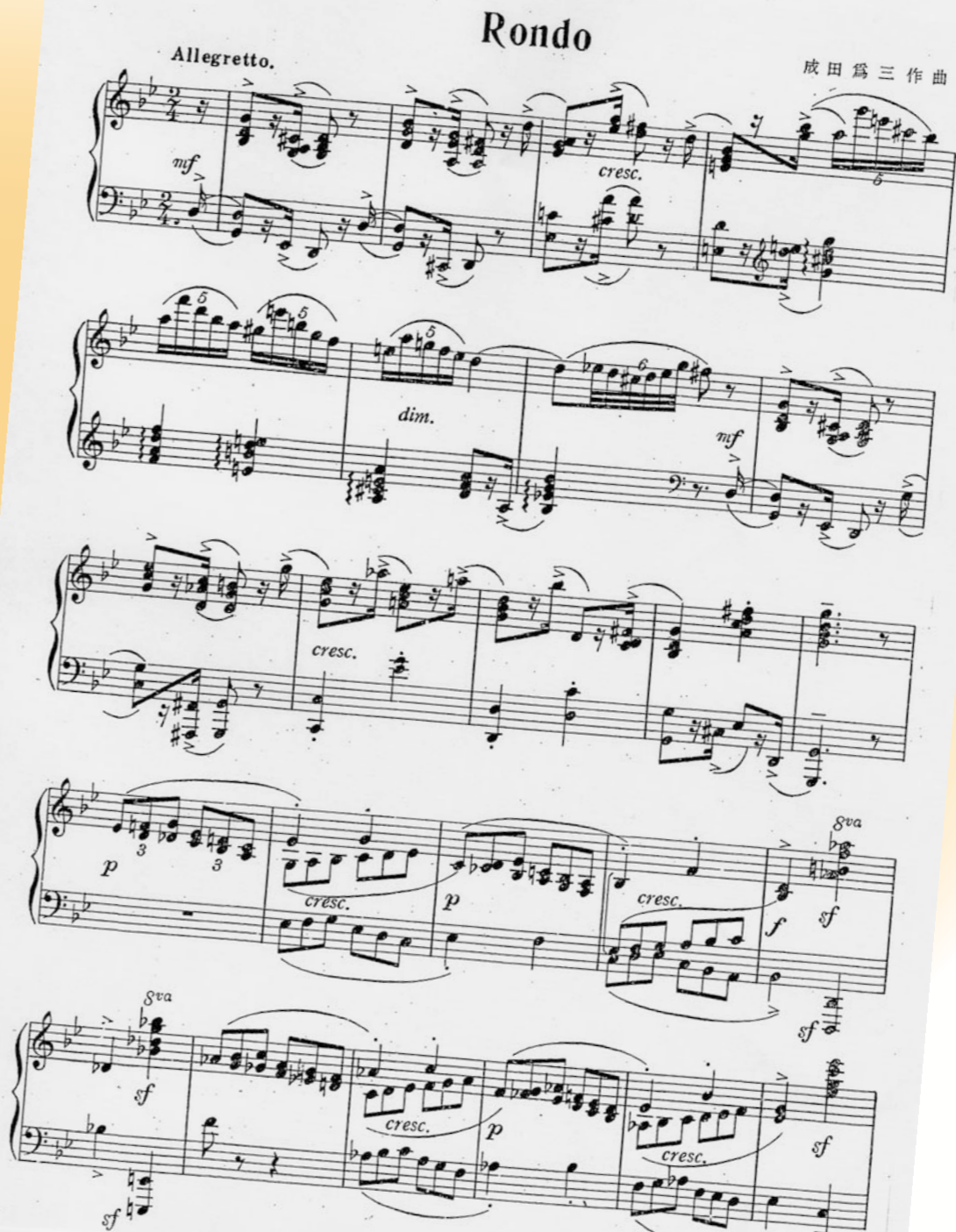


忘れかけられた成田為三作品を発掘

浜辺の歌音楽館演奏会で発見者(菊池大成氏)により県内初演



▶ 発見されたピアノ作品2曲の楽譜の一部



◀ 浜辺の歌音楽館を会場に、8月1日「テノール・デュオとピアノの夕べ」コンサートが開かれ、掘り起こされたピアノ作品2曲が演奏されました。

所蔵されているのを確認し、すぐに浜辺の歌音楽館に新資料の存在を知らせ、ついに8月1日、為三の業績を顕彰する浜辺の歌音楽館を会場に「テノール・デュオとピアノの夕べ」コンサートで菊池氏本人が演奏することになったものです。

ところが、5年前に東京在住のピアノ二スト菊池大成氏が国立音楽大学付属図書館内の「音楽雑誌・掲載楽譜リスト」中に、これまで忘れられていた為三のピアノ作品「秋一月を仰ぎ(四季のうち)」と「Rondo」の2曲の掲載記録を発見しました。それにより「秋一月を仰ぎ(四季のうち)」の楽譜が武蔵野音楽大学図書館に、もう1曲の「Rondo」の楽譜が国立音楽大学図書館に

「浜辺の歌」を聴くと、懐かしい情景が目につかびます。心を包み込むような、しっとりとしたメロディは、時を越え、世代を超え、今なお新鮮な感動を与えてくれます。米内沢村(現在は北秋田市米内沢)に生まれた成田為三(明治26年〜昭和20年)は、生涯の作曲数が300を優に超えると言われています。しかし、楽譜が存在するものは約9割で、戦災により、自筆楽譜をはじめとする貴重な資料が失われ、新資料を探すのは、非常に困難だといわれていました。